

キリスト者障害者通信

き ぼ う

No.82
2023.12.1

特定非営利活動法人兵庫共励会
〒672-8045 姫路市師磨区中野田四一六一三八
振替 FAX ○七九一二三五八八一九
発行所 ○七九一二三五八一〇一六
印刷所 廣田守男
新生会 作業所

クリスマスの喜び



廣田守男 理事長

言葉の成就

理事長 廣田守男

「主によって語られたことは必ず実現すると信じた人は、幸いです。」(ルカの福音書1章45節)。

エリサベツ(ザカリヤの妻、マリヤが親類)は、マリヤが訪ねてきた時、聖霊に満たされて「あなたは女の中で最も祝福された方、あなたの胎の実も祝福されています」とマリヤに告げ、大声で冒頭の御言葉を叫んだのです。

ザカリヤ(エリサベツの夫、祭司)は「口がきけない」状態でした。何故か? ザカリヤが神殿に入り香をたいている時、主の御使いから「あなたの願いが聞かれた。あなたの妻エリサベツは男の子を産みます。名をヨハネとつけなさい」と告げられたのに、自分も

妻も年を取っている現実を言ったのです。その時、御使いが「子供が産まれるまで、あなたは話せなくなります。その時が来れば実現する私のことばを信じなかつたからです」と告げたのです。その後、エリサベツは妊娠し、男の子が生まれ、ザカリヤが「その子の名はヨハネ」と板に書いた時、口が解け、ものを言い、神をほめたたえたのです。

「信仰は聞くことから始まります。聞くことは、キリストについての言葉を通して実現するのです」(ローマ10章17節)。

マリヤは、突然御使いから「おめでとう恵まれた方。主があなたとともにおられます」と告知を受けたのです。これは「インマヌエル」の恵みなのです(28、マタイ1…23)。

その御声に恐れ惑っている時、御使いから「恐れることはありません。マリヤ。あなたは身ごもつて、男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい」と御告げを受け、マリヤは「どうしてそのようなことが起こるのでしょうか。私は男の人を知りませんのに」と尋ねると、御使いが「聖霊があなたの上に臨み、いと高き方の力があなたをおおいます。それゆえ、産まれる子は、聖なる者、神の子と呼ばれます」との告知したのでした。その上、不妊の女と言われたアブラハムの妻サラ(創世記21章)、及びエルカナの妻ハナナ(1サムエル1章)、更にザカリヤの妻エリサベツの上に子どもを授けられた全能者としての御業を語り、「神にとつて不可能なことは何もありません」と告げたのです(37)。それはマリヤの信仰を励まし、神様の御業に与らせるためであつたのです。

マリヤはその時、「ご覧ください。私は主のはしめです。どうぞ、あなたのおことばとおり、この身になりますように」と神様の御旨に応答したのです。当時、マリヤはヨセフと婚約中でしたが、結婚したのと同じ法的責任を負わされ、女性が婚約期間中に妊娠した場合、相手の男性と共に「石打ちの刑」に処せられるのでした。マリヤはそのような背景にもかかわらず、ヨセフや他の人から誤解曲解を受ける恐れもある中で、御使いの告知を受け入れたのです。

そのマリヤがエリサベツを訪れ、神様の恵

みをほめたたたえたのです。マリヤが「私のたましいは主をあがめ、私の霊は私の救い主である神をたたえます。この卑しいはしのために目を留めて下さったからです」(46、48)と告白しております。マリヤが全身全霊を込めて神様の恵みに感謝し、賛美したのです。

ヨセフ(マリヤの婚約者、「正しい人」)は、マリヤの妊娠を知り「さらし者にしたくなかったので離縁しよう」と思い巡らしていた時、御使いが「胎に宿っている子は聖霊によるのです。マリヤは男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。この方がご自分の民をその罪からお救いになるのです。このすべての出来事は、主が預言者を通して語られたことが成就するためであった」と告げ、「その名は『インマヌエル(神が私たちとともにおられる)』と言う意味である」(マタイ1:23、イザヤ7:14)と真相を知らせたのです。ヨセフは御使いから告げられた通り、マリヤを自分の妻として迎え入れたのですが、「子を産むまでは彼女を知ることがなかった。そして、その子の名をイエスとつけた」のです(25)。

イエス・キリストがヨセフとマリヤの許に罪のない御方として誕生され、十字架の生涯を全うし、すべての人の罪の贖いの御業を成就して下さいましたのです。

私たちはイエス・キリストを救い主として信じる時、罪を赦されて神様の恵みを賛美する者とされるのです。「見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます」と約束されているのです(28:20)。神様は、更に多くの証人を備えて私たち一人ひとりの信仰を導き、ご自身の御業に与らせて下さるのです。兵庫共励会に属する一人ひとりもその救いの恵みに与り、どの様な状況の中にあるときにも、喜び感謝し、希望を抱いての歩みに導かれていくことを覚え主に感謝しましょう。

私たち一人ひとりも感謝して、神様の約束が満ちている聖書のお言葉に聴き、「時が来れば実現する」ことを信じて、信仰の友と交わり、主の恵みを感謝して歩みましょう。

(姫路あけぼの教会牧師)

**「人形浄瑠璃の義太夫節が
素晴らしかった。」**
日本キリスト教団 鈴蘭台教会
信徒 足 立 忍

去る、2023年10月12日に久しぶりに開催されたバス旅行に参加しました。参加者は23名でした。

行きの車中では、谷合公江姉のガイドで、参加者の自己紹介の後、讃美歌などを歌い、和気あいあいとした時間を過ごさせていただき、

神戸から約1時間程で淡路島の福良の駐車場に到着、なないろ館でご当地の海鮮料理を頂き、その後、淡路人形浄瑠璃館にて浄瑠璃を鑑賞しました。演目は「傾城阿波の鳴門巡礼歌の段」でした。

故あって、両親と別れた娘が、親を探しての巡礼の旅に出て、母親を捜し当てましたが、母親は身元を明かせず、追い返すという悲しい場面でした。

人形の動きが見えたら、もっと感動したのだらうと思います。何よりも義太夫節が素晴らしく感動しました。

帰りは、計画通りに無事神戸に着きました。運営に当たって下さった方々と、神様に感謝します。



なないろレストラン

バス旅行

楽しかったです。

日本自由メソヂスト教団

姫路野里教会

出席 ディアン テオファニ レスタニ

この前10月12日にバス旅行に参加させて頂いて凄く嬉しかったです。二人の友達も一緒に参加して「行って良かったね」と言われました。教会の信徒たちと集まり、神様の慈しみについて歌い、語り合うことができたことも嬉しかったです。本当に楽しいことばかりでした。

淡路島に初めて行ったので、思った通りに静かで自然な景色をよく感じてました。

淡路人形座に見に行って、最初は何を話しているか全然分からなかったのですが、途中で真ん中の上の方に字幕が付いたことが分かってから大体分かるようになりました、意外に楽しかったなあと思いました。

次回のイベントにも参加するのがとても楽しみにしております。

(インドネシアから来られた技能実習生3名が今回のバス旅行に参加されました。)



人形をあやつる説明



開 演 前



バス旅行集合写真

バス旅行

淡路人形浄瑠璃を見学して

二見キリスト教会

信徒 谷 合 公 江

ここ数年、コロナ禍の影響で出来なかったバス旅行が、淡路島へ人形浄瑠璃を見に行くことで、実施されました。

10月12日（木）朝9時に、姫路駅前待機するマイクロバスに、穂積修司先生以下9名が乗車し、大阪や神戸方面の参加者が待つ、湊川神社前へと向かいました。晴天に恵まれ、道路の渋滞もなく、予定通りに神社前に到着して、久しぶりに逢う方々と喜びの挨拶を交わし、トイレ休憩後、車椅子専用のワゴン車とマイクロバスに、各々分かれて乗車し、2台の車で淡路島へと向かいました。

車中では、配られた参加者名簿、讃美歌の記された印刷物を頼りに自己紹介をし、穂積先生のお誘いで参加されたインドネシアの若い女性3人や、久しぶりに顔合わせできた兄弟姉妹と讃美歌を唄いつつ、明石大橋を渡り、淡路島に入りました。

淡路の海や山の景色を見ながら、会話を弾ませていくうち、南端にある、福良バスターミナルに到着。レストラン「なないろ」で淡路名産の生シラス丼・あなご丼・鯛めし等の昼食（肉の糧）に満足して、浄瑠璃開演まで、

なないろ館での散策・買い物などで過ごし、すぐ近くの淡路人形浄瑠璃館前に集合、今日の演目の「傾城阿波の鳴門」の説明書きを受け取り、入場。空いている席のどこでも座れると言われ、廣畑良雄さんと、舞台の真ん前の席に座りました。

幕前に人形の頭（かしら）を持った座員の男性が登場し、人形の目・口・眉を動かす仕かけや、「主遣い」「左手遣い」「足遣い」の三人の人形づかいの役割と扱い方について実演で説明されました。

幕が開くと、母を尋ねて巡礼する娘お鶴と、訳あつて名のれぬ母お弓役の二体の人形を、黒衣・黒頭巾の三人の人形遣いが、三味線と義太夫の語りに合わせて、まるで歌舞伎役者が演じている様に表情と動作を操り、悲しい母娘の出会い場面を演じる妙技に感嘆しました。

五百年の歴史を持つ淡路人形浄瑠璃を間近で見、伝統芸能の心髄に触れ、伝統の大切さを思われました。

キリストを信じて日々を歩んでいる者の、新しい人との出会いがあり、また久しぶりに会う友との楽しい交わりがあった事を感謝し、帰路に着きました。



兵庫共励会

50年記念誌発行について

編集委員会

当初、発行の日を2023年10月としていましたが、編集作業が遅れて、2024年3月に延期させていただく事になりました。

現在、全ての原稿が出来上がり、印刷所に回しております。

12月14日に開催される、第7回編集委員会に、印刷所の職員も出席し詳細の打ち合わせをすることになっています。

皆様のお手元には2024年4月にはお届けできると思います。

今しばらくお待ちいただきますようお願いいたします。

発行が遅れて申し訳ありません。その分、内容が充実した記念誌になるよう努力いたします。

編集後記

クリスマスおめでとうございます。

ようやく、コロナ禍から開放されて、いつものようにクリスマスを祝いできるようになり嬉しく思います。

10月にバス旅行を久しぶりに開催でき、参加者32名が楽しい時を持つことが出来ました。共励会の今後の活動についてのご意見を、理事までお伝え頂ければ幸いです。